

市民影絵劇団みく・松戸市民劇団合同公演

「梨の懸け橋」



千葉県松戸市から鳥取県に二十世紀梨の苗木が導入されて100年。その記念すべき年に鳥取県倉吉市と千葉県松戸市の市民劇団がひとつのお芝居を創りあげました。題して「梨の懸け橋」。



まくあけ ちょうあん みやこ
幕開けは1200年前の長安の都。
げんそうこうてい ようきひ
玄宗皇帝と楊貴妃に悲しい別れの
おとず
時が訪れます。

ふたた
二人を再びめぐり合わせてやりたいと
みかど パイリー
考えた天の帝は、二人の天使・白梨
（パイリー）と香梨（シャンリー）に
しめい
使命を与えます。それは、1200年
も前の梨の子孫を探し出すということ。





いくつもの時を越え、世界中を旅した二人はようやく長安の梨の子孫が日本
にいることを知ります。そして現代の鳥取の公民館にたどり着いた白梨と香
梨は二十世紀梨の100年の歴史をたどることになります。



今から100年前。鳥取の農業は
いきづまり、新しい希望を求めて
いました。松戸で梨の新品種・二
十世紀梨が育てられていることを
知った北脇永治は、その発見者で
ある松戸覚之助に会いに行きます。

ごみすてば はっけん
ゴミ捨て場で発見されたという
二十世紀梨の幼木。この果実の
ふしぎ おいたち
不思議な生い立ちは北脇の心を
あつ
熱くとらえます。





今までにないみずみずしさ、上品^{じょうひん}な甘み、北脇はこれを鳥取に持ち帰り、
なしさいばい^{なしさいばい}いのち^{いのち}か^かを懸けることを誓^{ちか}います。



かこ げんざい
白梨と香梨は過去と現在を行ったり来たり、いそが
忙しいことこのうえありません。



二十世紀梨の歴史は苦難の歴史でした。
たびかさ 度重なる天災との 闘い。けれど 最も梨
くる 農家を苦しめたのは黒斑病でした。
つぎつぎ 次々と落ちていく梨を前に人々はなす
すべ 術もありません。
たかたとよしろう そんな時立ち上がったのは高田豊四郎と
せいねん という青年でした。



な ら ゆうこう たいさく
奈良で有効な黒斑病の対策がとられていることを知った豊四郎は、女先生と
ともに奈良に向かいます。奈良は彼女の生まれ故郷だったので。
かのじょ こきょう

くじょ
パラフィン紙による黒斑病駆除は、鳥取の
こうみょう とも
二十世紀梨栽培に光明を灯しました。
なしおうこく まくあ
「梨王国・鳥取」の幕開けでした。





二十世紀梨百年の歴史を^ま目の当たりにし、人々の梨にかける思いの強さを
知った^{ぱいりー}白梨と^{しゃんりー}香梨は、天の帝に最後のお願いをします。



見事、使命を果たした白梨と香梨。再びめぐり会うことができた玄宗皇帝
と楊貴妃が二人の天使に心より感謝...。感動のフィナーレを迎えます。